

◇ 快適な暮らしを支える住宅設備機器 ◇

新築当初、住宅設備機器を住まいに導入しお引き渡し時には、たくさんの取扱説明書や保証書が手渡され、皆さん使い勝手に悩まされた事でしょう。そんな最新の設備機器でも、いつしか使い方を自然に習得して次第に何気なく使いこなすようになっていた事と思われます。

しかしこれら設備機器は、いつまでも新品のままではありません。月日が経つにつれ、便利であった機能が徐々に低下していき、放置しておくといずれ故障が起きて修理や部品交換の回数も増えていきます。新品であった設備機器も使用した時から、劣化が始まっているのです。

住宅設備機器は、家電メーカーが故障した際に定めた部品の保有期間が過ぎると、交換部品の生産が中止され、慣れ親しんだ設備機器であっても新品と交換しなければならない時がいずれやってきます。

建物の用途や設備機器の稼働状況などによって耐用年数は異なる為、法令で定められた基準はありませんが、設備機器買い替えの目安は、およそ10年前後と言われております。

十年一昔。最新の設備機器を導入した新築時でしたが、この十年の歳月で機能面が大きく充実し、高いデザイン性、効率的で利便性が高い設備機器へと進化しているのです。

◇ 効率的で便利な暮らしを実現 ◇

現在の設備機器は、子供や高齢者、共働き世帯など、全ての人が便利で使いやすいように年々、家事や子育てを支援する機能が備わっています。

エアコンやテレビ、照明の操作や、玄関ドアの施錠・解錠、目覚ましカーテンなどと、様々な家電がスマートフォンをリモコン代わりにコントロールでき、遠隔操作をする時代へと進化しているのです。

電気を熱源とした給湯器の主流と言えるエコキュートは、それぞれの家庭のライフスタイルにあった湯量を過去の使用量などから判断し、必要な量だけ沸き上げる学習機能がついています。

暖房機の主流となった冷暖房エアコンには、外気温が室内にどのような影響を与えているかを把握させるため、AI知能がそれぞれの家庭にあったベストな環境を創り出してくれるなど、今や家庭用設備機器にも当たり前のように学習機能が搭載されています。

これらの設備機器を上手に設定する事で無駄を減らし、熱効率の良い省エネ化へと家庭用設備機器は変化を遂げているのです。

使用年数が経ち、使い慣れた設備機器を大切に長く使う事も重要ですが、電気を使う設備機器は劣化による危険性が伴います。年月が経つと徐々に光熱費が嵩み、機能低下が考えられますので、一定の年月を経過した設備機器は無理な使用を避け、入れ替えを前提として割り切る決断も必要です。

◇ メンテナンスが伴う住まいの要素 ◇

住まいを構成する屋根材や外装材、断熱材、開口部、設備機器、室内建具、壁紙など様々な要素が複雑に絡み合い、住まいは成り立っています。

これら大半の部位は、本来の機能を損なう前に相応の対処ができれば快適な生活を維持する事は可能ですが、断熱材に関しては大掛かりな改修が伴います。

生活空間から見えない断熱材は、軽視されてコストを削られやすい部位です。断熱・気密が、不十分だと冷暖房効率下がだけでなく、壁内や天井裏、床下など目視できない場所で起こる内部結露により住まいの寿命を短くし、住む人の健康面にも大きな影響を与えてしまうのです。

断熱材の断熱効果は性能値で判断できますが、断熱材に求められるのは半永久的に性能を持続できる事。屋根材や外装材、設備機器など目視で確認できる部位とは違い、断熱材の劣化は徐々に光熱費が嵩み年々、寒い住まいとなってしまいます。

「ファースの家」の断熱材は、長期間にわたり劣化する事はありません。

ファースユーザー様は断熱材以外の部位、本来の機能を損なう前に対処し、快適な生活を維持して皆様の「ファースの家」を後世に引き継いで行きましょう。

(著・ハウジング事業部 久保田公明)

孝太の知恵袋

固まった砂糖をさらさらに戻す方法

容器のなかでいつのまにか固まっている砂糖。

少しでも入れたいときに不便な思いをしたことはありませんか？

砂糖は空気に触れると、出荷時に含んでいた水分が蒸発し結晶化。

さらさらな状態を維持するには、密閉容器に入れ湿度を一定に保つ必要があります。

食パンやマシュマロを容器のなかに入れると水分を含んでいて、砂糖に湿気が移ることでさらさらな状態に戻ります。

カビが生えないよう、5～6時間経ったら取り出してください。